

明治末～昭和初期の文学

※詩歌 自由詩 1高村光太郎(『道程』『智恵子抄』) 2萩原朔太郎(『月に吠える』『青猫』)  
 3室生犀星(詩集『抒情小曲集』 小説『性に目覚める頃』)  
 俳句 新傾向運動 <例> 河東碧梧桐(主観主義) 荻原井泉水『湧出るもの』  
 短歌 <例> 4斎藤茂吉(『赤光』『あらたま』) 島木赤彦(『氷魚』『柿蔭集』)…アララギ派  
 若山牧水(『別離』『くろ土』)ら

[I] 反自然主義(明治末～大正)

(a) 5**耽美派**(唯美派)…雑誌『三田文学』(慶応系)『スバル』 芸術至上主義 精神より官能

6永井荷風『冷笑』(1909-10) 『7腕くらべ』(1916-17)

8谷崎潤一郎 『9**刺青**』(1910) 『痴人の愛』(1924)

佐藤春夫『田園の憂鬱』※詩人としても活躍

(b) 10**白樺派**…同人雑誌『11**白樺**』 学習院系 個人主義・人道主義 キリスト教の影響

12**武者小路実篤** 『13**その妹**』(1915) 『人間万歳』 ※宮崎県に「新しき村」(共同生活農場)

14**有島武郎** 『15**或る女**』(1911) 『カインの末裔』 ※北海道の有島牧場の小作人に土地を解放

16**志賀直哉** 『城の崎にて』(1917) 『17**暗夜行路**』(1921-37) 『和解』

倉田百三『出家とその弟子』(戯曲) 『愛と認識の**出発**』(評論)、里見**淳**(有島の弟) 『多情**仏心**』

[II] 18**新現実主義**…現実を日常生活から観察 **耽美派**や**白樺派**への反発 大正中期以降の文壇の主流

(a) 19**新思潮派**(新理知派)…同人雑誌『20**新思潮**』(第3期・4期) 東大系 理知的

21**芥川龍之介** 『22**羅生門**』(1915) 『鼻』『芋粥』『河童』『**或阿呆の一生**』(1927)

23**菊池寛** 『父帰る』(戯曲 1917) 『恩讐の彼方に』 雑誌『文藝春秋』(1923) 芥川賞・直木賞を創設

山本有三『**波**』(1923) 『女の一生』『**真実一路**』(1936) 『路傍の石』 久米正雄『**学生時代**』

(b) 早稲田派…庶民的小説(作者自身がモデル: 自然主義的) 『早稲田文学』

宇野浩二『**葎の中**』(1919) 葛西善蔵『**子をつれて**』(1919) 広津和郎 **ほか**

[III] 大正末～昭和初期の2つの系列

(a) 24**プロレタリア文学**…第一次大戦後 労働者の立場 革命の文学 ※農民文学も

雑誌『25**種時く人**』(1921～23)…小牧近江、金子洋文ら 反戦平和 震災で廃刊

→ 『**文芸戦線**』(1924～31)で復活 日本プロレタリア文芸連盟(1925～28)の結成

→ 全日本無産者芸術連盟(NAPF)…急進的 雑誌『26**戦旗**』 蔵原**惟人**・中野重治ら

27**小林多喜二** 『一九二八年三月十五日』(1928) 『28**蟹工船**』(1929) 拷問により**虐殺**

…三・一五事件(共産主義弾圧)を題材

29**徳永直** 『30**太陽のない街**』(1929) 31**葉山嘉樹** 『**海に生きる人々**』(1926)

他に、黒島伝治『**電報**』『**渦巻ける鳥の群**』 宮本(中条)百合子、前田河広一郎ら

(b) 32新感覚派…感覚的表現を主張 文体の革新をめざす 雑誌『文芸時代』

33川端康成 『34伊豆の踊子』(1926) 『35雪国』 『山の音』 ※のち ノーベル文学賞

36横光利一 『37日輪』(1923) 『機械』 『蠅』 梶井基次郎 『檸檬』(1925)

## 戦時下の文化

教育 1941. 37国民学校令 …国家主義の強化 ナチスを模倣

小学校を38国民学校に改組 39義務教育を8年に延長(計画のみ…戦争で実施できず)

文学 45転向文学 …プロレタリア文学作家が自らの転向を題材に

<例> 島木健作『生活の探求』(1937)、村山知義、中野重治、高見順、林房雄

戦争文学 <例> 42石川達三 『43生きてゐる兵隊』(1938「中央公論」)→即日発禁

40火野葦平 『41麦と兵隊』(1938「改造」) (残虐行為も描写)

44日本浪漫派(民族主義・復古主義→ファシズムに同調)…保田与重郎・亀井勝一郎ら

他に、46島崎藤村 『47夜明け前』(1929-35) 堀辰雄(『風立ちぬ』1936) 伊藤整 武田麟太郎

48谷崎潤一郎 『49細雪』(1942-48.軍部の圧力で中断のち再開) 阿部知二 小林秀雄(評論)

宗教 ひとつのみち教団(1931) 創価教育学会(1930) 灯台社(1926)→宗教団体法(1939)などにより弾圧

漫画 田河水泡『のらくろ』(→満州へ) 島田啓三『冒険ダン吉』(→南の島へ)

※ 50言論・出版・集会・結社等臨時措置法(1941)…内閣情報局による統制 →戦争協力体制へ

<例>日本美術報国会(1943) 日本文学報国会(1942) 大日本言論報国会(1942) 大東亜戦争美術展(1943)

※ 51敵性語(英語)の禁止…1940年頃から 自然発生的な社会運動(法的根拠なし)

しかし、これを聞いている中に、下人の心には、ある勇氣が生まれて来た。それは、さつき門の下で、この男には欠けていた勇氣である。そうして、またさつきこの門の上へ上って、この老婆を捕えた時の勇氣とは、全然、反対な方向に動こうとする勇氣である。

(芥川龍之介『羅生門』)

(川端康成『雪国』)

【時代順問題に挑戦】 センター2019年度追試A

I ②武者小路実篤ら、雑誌『白樺』に拠るグループが活躍した。

II ①二葉亭四迷らによって言文一致体の文章表現が試みられた。

III ③戦争を描いた文学が流行し、火野葦平が『麦と兵隊』を著した。

